

飲食店街における店舗の新旧に着目した景観的魅力の分析

横浜市中区の野毛地区飲食店街を対象として

1563300 宗野 みなみ

指導教員 高見沢実教授 野原卓准教授

1. はじめに

1.1 研究の背景・目的・対象地

近年、昭和の雰囲気を残す飲食店街が若い世代からの注目を集め新規店舗の参入が進んでいる。そのことが街に賑わいを与える一方、街が持つ固有の魅力が失われることが危惧される。そこで、店舗の更新が進んでおり現状、新旧店舗がバランスをとっている飲食店街において景観の特徴を明らかにする。新規に参入する店舗が既存店舗と調和しつつ景観的魅力を向上させていく方法について示唆を得ることを本研究の目的とする。対象地は神奈川県横浜市中区の野毛地区飲食店街である。

1.2 論文の構成と研究の方法

1章で研究の目的や方法などについて述べる。2章ではヒアリング調査と文献調査をもとに、対象地の成り立ちと近年の動向について整理する。3章では現地調査と連続立面写真、連続立面図をもとに、対象地の景観的特徴を店舗の新旧に着目して調査・分析する。最後に4章で研究成果を考察する。

2. 対象地の成り立ちと近年の動向

対象地は横浜開港を機に漁村から町になり、娯楽や買い物ができる庶民の町として栄えた。関東大震災によって焼け野原となり、その復興区画整理による街区割りが現在も維持されている。第2次世界大戦中の横浜大空襲により再び焼け野原となり、戦後自然発生的に闇市が形成され大いに賑わった。しかし、東急東横線横浜駅・桜木町駅間廃線をはじめとする周辺状況の変化により対象地の商店街は徐々に衰退した。ところが2008年頃から新規店舗の参入が目立ち始め、現在は多くの来街者で賑わっている。

3. 店舗の新旧に着目した景観的特徴の調査・分析

3.1 調査方法

守山ら(2010)¹⁾の街並み構成要素の記号的な記述手法と三島(1995)²⁾の統一性と多様性に着目した街区ファサードの分析手法を参考に検討した。

(1) 対象街路の選定

新旧店舗が約半数ずつ混在しそれが調和しつつ個性を出している野毛小路と野毛こうじを対象とする。

(2) 調査対象と調査の単位

対象街路に面する建物1階の飲食店を対象とし、調査単位は店舗(図1)とする。調査単位の高さ方向は、看板、庇、1階部分が2階部分よりセットバックしている場合はその段差の中で、最も店舗の間口を大きく占めるものの地面からの高さとする。

(3) 調査の対象とする景観構成要素と調査項目

街路を歩く人から見た景観の構成要素を挙げ「立面的要素」と「断面的要素」に分類した(図2)。さらに、各景観構成要素の調査項目を設定した(表1)。

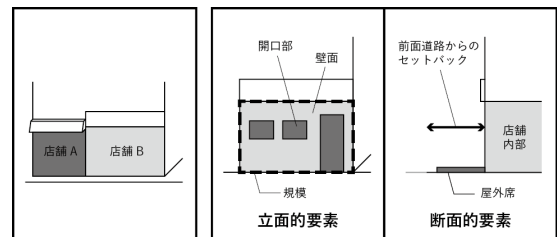


図1 調査の単位

図2 景観的要素

(4) 店舗の新旧の判断基準

ヒアリング調査で得た、2008年頃から新規店舗の参入が目立つという情報をもとに、現在の場所で営業を始めたのが2007年以前である店舗を「旧店舗」、2008年以降である店舗を「新店舗」とする。判断は住宅地図による。対象街路沿いの飲食店48店舗中、旧店舗が25軒、新店舗が23軒であった。

3.2 各項目の調査・分析結果

調査結果の代表値を表1に示した。また、各項目の調査結果からヒストグラムを作成し分析した。

(1) 間口の長さ(図3)の調査・分析結果

新店舗には、旧店舗には見られない長さの間口を持つ店舗が見られるが、大部分では旧店舗の特徴を新店舗が引き継いでおり、全体として3000mm以上5000mm未満の範囲に集中していた。

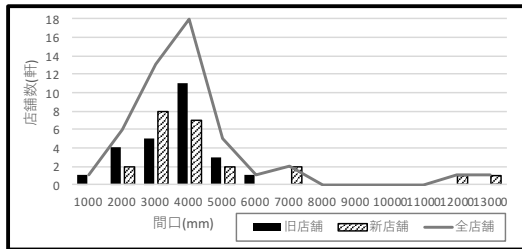


図3 間口の長さの調査結果(ヒストグラム)

(2) 開口率(図4)の調査・分析結果

旧店舗の開口率は0%以上30%未満の範囲に集中しているが、新店舗の開口率は0%以上100%以下の範囲に広く分布している。新店舗の参入により、全体として開口率が大きい店舗の割合が増加した。

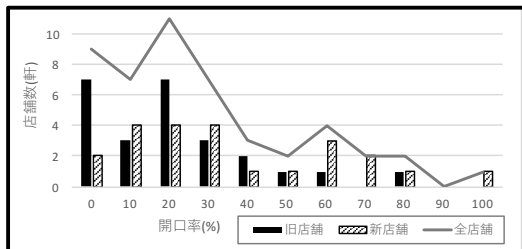


図4 開口率の調査結果(ヒストグラム)

(3) 全項目の調査・分析結果

まず、全店舗についての調査・分析結果を述べる。景観構成要素の中で、規模(間口、高さ、ファサード面積)、壁面(色相・彩度、素材)、開口部

(付加的要素)、セットバック(全体、部分)、屋外席は、景観的特徴が一定範囲内で揃っていた。一方で、壁面(明度)、開口部(素材、開口率)は、景観的特徴が多様であった。

次に、新旧店舗の比較についての調査・分析結果を述べる。規模(間口、高さ、ファサード面積)、壁面(色相・彩度・明度、素材)、セットバック(全体)は新店舗が旧店舗の特徴を引き継いでおり、規模(間口、高さ、ファサード面積)、壁面(色相・明度・彩度)、開口部(素材、開口率)、セットバック(全体)、屋外席では新店舗が旧店舗にはない特徴を付け足し、壁面(素材)、開口部(開口率)、セットバック(部分)では新店舗が旧店舗の特徴の偏りを緩和していた。

4. 結論

景観構成要素に、店舗間で統一感のある部分と、多様な部分が共存することが景観の魅力につながるのではないだろうか。また、新店舗が旧店舗の特徴を引き継ぐ部分、新たな特徴を付け足す部分、特徴の偏りを緩和する部分が共存することで、新旧店舗が調和しつつ景観的魅力を向上させることができると思われる。

主な参考文献

1. 守山基樹、門内輝行「京都の街並み景観の記号化と記号のネットワークの記述 街並みの景観における関係性のデザインの分析 その1」日本建築学会計画系論文集第75巻第652頁、P.1597-P.1516、2010年6月
2. 三島伸雄「ウィーン都市部におけるタウンスケープのコントロールシステムと建築デザインとの均衡的共存-景観評価と住民参加を含む建築許可プロセスの提案」博士論文 1995年
3. 野毛地区街づくり会・横浜商科大学「横浜商科大学野毛まちなかキャンパス 横浜・野毛の商いと文化」2011年
4. ゼンリン「ゼンリン住宅地図 横浜市中区 200707」2007年

表1 調査項目と結果の代表値

景観の構成要素	調査項目	旧店舗				新店舗				全店舗					
		平均値	最小値	最大値	最頻値	平均値	最小値	最大値	最頻値	平均値	最小値	最大値	最頻値		
立面的要素	規模	間口(mm)	4181	1605	6718	4000≦x<5000	5076	2689	13823	3000≦x<4000	4610	1605	13823	4000≦x<5000	
		高さ(mm)	2463	2066	2925	2400≦x<2600	2613	1980	3580	2500≦x<2600	2534	1980	3580	2500≦x<2600	
		ファサード面積(m ²)	10	4	15	10≦x<15	13	7	36	5≦x<15	12	4	36	10≦x<15	
	ファサード構成要素	壁面	色相				YR				Y				Y,YR
			明度	6.11	1.78	9.89	8≦x<9	4.93	0.47	9.05	6≦x<7	5.56	0.47	9.89	6≦x<8
			彩度	2.67	0.04	12.65	0≦x<1	2.44	0.15	8.89	0≦x<1	2.56	0.04	12.65	0≦x<1
開口部	素材				モルタル				モルタル				モルタル		
	付加的要素(格子・柵)の有無				透明ガラス				透明ガラス				透明ガラス		
	開口率(%)	26	0	86	0≦x<10,20≦x<30	40	0	100	0≦x<30	33	0	100	20≦x<30		
断面的要素	街路との関係性	前面道路からのセットバック	全体セットバック(mm)	525	107	1665	200≦x<400	703	193	4308	500≦x<600	610	107	4308	200≦x<400,500≦x<600
		部分セットバックの有無				有り				有り				有り	
付加的要素	屋外席	屋外席の有無				無し			無し				無し		